解けたガラスに触れる
—たらす、のばす、ふくらます

高橋禎彦
ガラス作家

「山のシューレ2008」に続き、今年も高橋禎彦先生のガラスワークショップとなりました。昨年は、将来ガラス工房を作りたい人の為のガラス溶解炉、除冷炉、グローリーホールの作成と、ガラス経験者の為のワークショップでした。
今年は初めての方でも楽しく簡単にできるガラス制作がテーマです。

一日目
サンドキャスト

「サンドキャスト」では、最初に少し湿った砂に凸型の物を押し付けて凹型の砂の型を作ります。そこにガラス熔解炉より 1200℃でドロドロに溶けたガラスを流し込むと、砂に押し付けた凸型のガラスの塊りの作品ができ上がります。

午前 10 時に受講生の皆さんが集まって、さっそく初日のスタートです。高橋先生からガラスの扱いについて、基本の説明があり、その後デモンストレーションに移ります。ガラスの溶けている熔解炉の蓋を開けて、真っ赤に燃える 1200℃の炉内と吹き出してくる熱風には皆さんも、ビックリ。それでは最初に型づくりです。砂に野菜や野菜のヘタ、自分の指、スタッフの肘などを押し付けて型を作っていきます。型が出来上がったらガラスを流し込む作業です。ギャザリングロットにガラスを巻き取り、窯から出し、砂型の中に熱く溶けた柔らかいガラスを流し込みます。少し冷めるのを待って、ガラスを砂から取り出して、冷ますための徐冷炉に入れます。

作品は一晩かけてゆっくり冷まし、翌日の朝に窯から出します。高橋先生はワインの瓶を砂に押し当て、事前に作っておいたパーツを入れた作品などを作って午前は終了です。ここで高橋先生より「お昼の休みを利用して、型としておもしろい物を探してみてください」と課題がでました。

午後からはいよいよ受講生の皆さんの創作がスタートです。それぞれ昼食に飲んだミニワインやラムネの瓶、売っていたキッチンガーデンの野菜などを持ち寄りました。砂の箱を前にして、型作りに熱中します。手や服が砂まみれになるのもかまっていられません。靴を脱いで、素足で型を作る人もいました。その後、工房のスタッフに自分の作品にガラスを流し込んでもらって、翌朝のでき上がりを楽しみに待ちます。この日は各自 3〜4 個の作品をつくることができました。

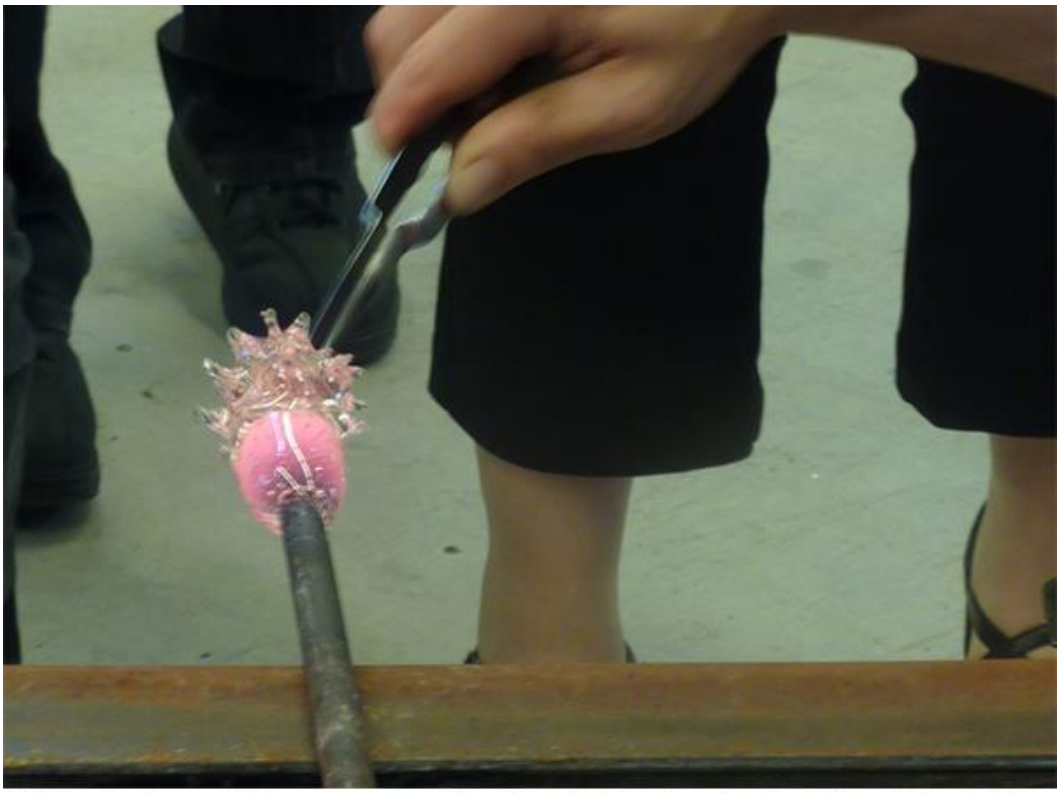
１日目のサンドキャスト。ワインのボトルや野菜、自分の手など、おもしろい形になりそうな物を探してきて、砂に凹型を作っていきます。どんな形になるのでしょうか？

出来た型にガラスを流し込みます。熔解炉から真っ赤なドロドロのガラスが出てきたときには「お一」と歓声があがりました、型にガラスを流し込んだら、表面が冷めて割れないように上から炙ります。

二日目
ホットワーク

「ホットワーク」はガラス熔解炉からガラスを巻き取り、道具を使って形を成形する作業です。新しい受講生も加わって、デモンストレーションを熱心に見学します。まずは丸い球の作り方から。竿にガラスを巻き取り、後でそこから落とすための"くくり"を入れ、水を付けて竿から落とし、徐冷炉に入れるという基本の作業です。その後は巻いたガラスをピンサーという道具でつまんだり、鋏で切ったりなど柔らかいガラスの扱い方を見せてもらいます。あっという間にできてくるカタツムリや馬などに、皆さんは感嘆の溜息がしきり。ガラスに慣れるために、順番に作業ベンチに座り、柔らかいガラスをくっつけて切る練習もします。

午後からはまず、基本の丸い球の練習です。熔解炉からガラスを捲く作業は熱くて難しいのですが、皆さん楽しそうに初体験。その次にピンサーでつまんだり伸ばしたりなど基本の丸い球に装飾をしていきます。だんだん慣れて、いろいろ作りたいカタチにチャレンジします。高橋先生も受講生のリクエストに応えて、作り方のお手本を見せてくれます。この日は作品数は 5 個。受講生たちはもっと作りたい様子でした。



2日目のホットワークは、ステンレスの竿にガラスを巻き取り、引っ張ったり、ねじったりして形を作ります。高橋先生のデモンストレーションでは、ガラスがどんどん形を変え、カタツムリになったり、馬が出来たり。皆さん高橋先生の手元に釘付けです。

受講生の制作時間。初めて扱うやわらかいガラスと格闘中。順番に一人一人ガラスをくっつけていき、ぽこぽこした作品を共同作業で作りました。皆さんドキドキしながら見ています。

三日目
吹きガラス

「吹きガラス」はパイプにガラスを巻き取り、息を吹き込み脹らませて作品を作ります。この日はコップ、ゴブレット、ピッチャー、大皿などとても見ごたえのあるデモンストレーションでした。この日のデモンストレーションの作品はバーラジオの尾崎さんにプレゼントされました。

午後の作業では、昨日参加した受講生はさっそく吹きガラスに挑戦です。ガラスを捲くのは昨日と同じですが、息を入れ膨らますのは吹く加減が難しく、膨らみすぎてしまうなどの失敗もありました。最初は丸く膨らませて底を作るだけの簡単な一輪挿しから始まり、次にコップの底にポンテを付け、穴を広げてコップを作るなど徐々にレベルアップして行きました。最後には皆さんお皿やミルクピッチャーなどにも挑戦していました。

初めての受講生は、昨日の講座と同じく丸い球を作る基本の作業からです。その後ガラスに慣れたところで実際にガラスを膨らましコップなどを制作しました。

今回のガラスのワークショップは、ほとんどの方が初めてという事もあり皆さん最初は緊張していましたが、実際に体を動かし高橋先生と話す事により、緊張もほぐれとても楽しそうに制作していました。この 3 日間で受講生の皆さんにガラスの楽しさを知って頂けたと思います。

3日目の吹きガラスは、ステンレスのパイプにガラスを巻き付けて息を入れて膨らまし、器を作ります。まずは高橋先生のデモンストレーション。コップ、ゴブレット、お皿などが、次々と流れるように出来上がります。

1200℃ある熔解炉の前に立ってガラスを巻きます。その熱さにも負けず、皆さん上手にガラスを巻いて、コップやお皿を作りました。